

防災機能（BCP関連）

	江別市(案)	選定理由
自家発電設備／燃料備蓄日数	3日以上	官庁施設の総合耐震計画基準より72時間（3日）以上を想定。
自家発電設備／燃料	検討中	※燃料については、空調熱源と同一とすることも含め検討する。
受電回線数	1回線	発電機及び予備線に係るコスト比較により今後決定するものとする。
飲用水	3日（ペットボトル対応）	スペースやコスト面からペットボトルでの対応とする。
雑用水	3日（雑用水貯留槽）	地震や下水管の損傷などによる復旧作業日数等を考慮し、3日程度を想定。
排水	3日（非常用排水槽）	上記同様
冷暖房	3日	官庁施設の総合耐震計画基準より、3日程度の熱源エネルギー備蓄を想定。
空調・熱源／エネルギー	検討中	※熱源については空調方式や省エネ等の観点から比較検討を行い決定する。
昇降機	利用可	上階に機械室や倉庫関係を想定することから、災害時にも利用可能とする。

議会機能

●基本計画での決定事項

■議場形式

- ・現状の議員定数に応じた適切な規模の議場を整備します。
- ・床の形状は車いすの利用や多目的利用を想定したフラット形式を基本とし、議席は可動式とします。
- ・議席の配置形式は、議長席の左右に理事者席と議員席が向かい合うように配置される対面配置型とします。
- ・議場や関連諸室はバリアフリー化を推進し、車いす利用者にも対応する議席や演台を設置します。

●傍聴席の形式

		フラット形式（傍聴席と議員席が同じレベル）	段床形式（傍聴席が議員席より高い位置）
断面イメージ			
特徴	天井高さ	○ 床レベルが均一なため議場と同じ分だけ確保出来る	△ 床レベルを上げた分だけ確保する必要がある
	多目的利用	○ 傍聴席を含めた議場全体での利用が可能	△ 議場部分の利用が可能
	バリアフリー対応	○ 車いす席配置の自由度が高い	△ スロープ等の設置が必要
	コスト	○ 通常の床工事で対応可能	△ 造作工事が増えるためコスト増が見込まれる
	セキュリティ	△ 議場との仕切り方に工夫を要する	○ 床レベルを上げるほど議場への進入が困難になる
	視認性	△ 席によっては議場全体を見通しにくい	○ 目線が高くなることで、議場全体を見通しやすい
	議員席との関係	○ 議員席と同じ目線の高さで傍聴できる	△ 傍聴席との距離によっては議席の机上の書類等が見えてしまう

●傍聴席の什器

	可動式	固定式
バリアフリー対応	○ 傍聴席内のどの場所でも車いす利用に対応可能	△ 車いす利用に対し位置の制限がある
多目的利用	○ 傍聴席部分も含めて変更可能であり、自由度が高い	△ 傍聴席の配置は変更できない
導入コスト・更新コスト	○ 設置費用、維持経費ともに抑えることができる	△ 可動式よりもコスト増が見込まれる